

茶病虫害防除情報

【第 18 号】

令和 5 年 5 月 1 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

良質夏茶の安定生産に向けた

一番茶後の病虫害防除対策

今年産一番茶は気候的には恵まれ平年より早い生産になりました。一番茶の生産は遅場産地でも終盤になってきました。今年も厳しい市況となり、また肥料、燃料などの生産資材費の高騰もあり厳しい条件での生産になりましたが、皆様の努力・工夫で良質茶の生産はすすめられました。ゴールデンウィーク連休になりましたが、茶業関係の皆様には最も繁忙期で、本当にご苦労様です。今回は一番茶後の病虫害対策についてお知らせします。

◎ 病虫害の発生概要

一番茶期は今年も幸い病虫害の発生被害は殆どみられないようでした。しかし気温が上がり、病原菌や害虫の活動も活発になり、発生が多くなる時期になりました。

ハマキムシ類は最近やや多くなってきています。病虫害防除所の 5 月の発生予察情報では、第 1 世代の発生量はチャノカケモンハマキ「やや少」、チャハマキ「並」、発生時期は「やや早い」予報です。いずれの産地も刈番茶の摘採後頃がふ化～若齢幼虫発生期で、防除の適期になります。

カンザワハダニの発生は一番茶前まではやや多く経過し、その後一番茶期は比較的に晴天日が続いたためさらに発生増加が懸念されましたが発生・被害は少ない状況のようです。県病虫害防除所の発生予察情報では「並」となっています。例年一番茶摘採後の今頃からが発生のピークになり、その後減少していきますので、しばらく発生に注意が必要です。

カブリダニ類はこの数年多発生が続いていましたが、4 月下旬の調査では発生は少ない状況でした。これから晴天が続くと発生が多くなる恐れもありますのでしばらく注意が必要です。

発生が拡大している**チャトゲコシジラミ**は県内の殆どの産地で寄生がみられており、一部地域の茶園では煤病発生もみられています。4 月中下旬の調査では、かなりの園で成虫が一番茶新芽に群生・乱舞する状況で、予察情報では「防除に関する留意事項」として注意を呼びかけています。成虫の発生が多く確認されている地域、園では一番茶後の防除に努めてください。

◎ 基本的防除対策

① ハマキムシ類の防除法（補完・臨機防除）

ハマキコン N 使用園は防除の必要はありません。ハマキ天敵利用防除園や薬剤防除園では出来れば地域のフェロモントラップによる予察情報を活用し、発蛾最盛日 16～22 日後に防除します。防除適期の予想は早場産地が 5 月 1～3 半旬、中間・遅場産地が 5 月 2～4 半旬頃になると思われませんが、刈番茶摘採後頃を目処にしてください。

② カンザワハダニの防除法（補完・臨機防除）

一番茶摘採後 5 月上中旬頃が発生のピークになりますので、発生が多い園では刈番茶摘採後早目に防除します。天敵（カブリダニ類など）の働きが活発になる時期であるため天敵に影響の少ない薬剤を選びましょう。なお、発生は天敵の活動と梅雨の影響で 5 月中～下旬頃には自

然に減少しますので5月中旬以降の防除は必要ありません。

③ サビダニ類の防除法（臨機防除）

一番茶摘採後頃に急増し、摘採残葉の褐変黄化・萎縮・落葉などの被害を生じることがあります。茶園が黄褐色化するなどで発生に気づいたら早めに防除します。通常はかざりワダニと同時防除できますが、発生が多い場合は専用剤での防除が望ましいです。

④ チャトゲコナジラミの防除法（補完防除）

一番茶摘採期頃に成虫が発生し、5月上中旬頃が防除適期である若齢幼虫発生期になります。クシカイヤラムシの防除適期であるふ化最盛期と発生が概ね同調しますので、同時防除を狙った防除が可能です。裾葉・葉裏に十分薬液が懸るように散布します。

表 一番茶後の病害虫防除法

病害虫名	防除薬剤	希釈倍数	使用基準	使用上の留意事項
チャノコカクモンハマキ チャハマキ	ハマキ天敵	1000～2000倍	前日 ー	・ふ化～2齢迄の若齢期で、フェロモントラップの発蛾最盛期16～22日後が散布適期である。 ・有機栽培に使用できる。
	チュンアップ 顆粒水和剤	2000倍	前日 ー	・これらBT剤は若齢幼虫期散布の効果が高い。 ・天敵への影響は少ない。 ・有機栽培、米国輸出茶栽培に使用できる。
	ゼンターリ 顆粒水和剤	1000倍	7日前 ー	
	デルフィン 顆粒水和剤	1000～2000倍	前日 ー	
	サブリンフロアブル	1000倍	7日前 ー	
	レピクリーンDF	500～1000倍	前日 ー	
	エクシレルSE	2000倍	7日前 1回	・ジアミド系薬剤(フェニックス・サムコル・エクシレル・テッパン)は一部地域(枕崎)では感受性が低下しているため、注意する。
	サムコルフロアブル	2000倍	3日前 1回	
	テッパン液剤	1000倍	3日前 1回	
	スピノエスフロアブル	2000～4000倍	7日前 2回	
アフーム乳剤	1000～2000倍	7日前 1回		
アグリメック	1000倍	7日前 1回		
かざりワダニ	ダニサラハフロアブル	1000～2000倍	7日前 2回	・マイトコネは遮光栽培では遮光開始14日前までに使用する。 ・同一系統薬剤の使用は年1回とする。
	ダニコングフロアブル	2000～4000倍	7日前 1回	
	マイトコネフロアブル	1000倍	※14日前 1回	
	スターマイトプラスフロアブル	1000倍	14日前 1回	
	アグリメック	1000倍	7日前 1回	
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日まで ー	・有機栽培に使用できる。
ミルバノック乳剤	1000倍	7日前 1回		
サビダニ類	サンマイトフロアブル	1000～2000倍	14日前 2回	
	アグリメック		7日前 1回	
	スターマイトプラスフロアブル		14日前 1回	
	サンクリスタル乳剤	300～600倍	前日まで ー	
ミルバノック乳剤	1000倍	7日前 1回		
チャトゲコナジラミ	アプロートエスフロアブル	1000倍	14日前 2回	・クシカイヤラムシと同時防除可。 ・400L/10a散布する。
	アグリメック	1000倍	7日前 1回	

備考 ☆ ハマキ天敵との混用または近接散布(7～10日以内)

可能な薬剤・・・サンマイト スターマイトプラス ピラニカ ミルバノック マイトコネ ダニサラハ ダニゲッター サンクリスタル など
避ける薬剤・・・ハチハチ アグリメック アフーム エクシレル サムコル テッパン スピノエス BT剤 など



チャトゲコジラミ成虫蝟集状況



チャトゲコジラミ幼虫寄生状況



チャハマ成虫 雌 雄



チャノコクモンハマキ成虫 雌 雄



チャノコクモンハマキ 卵塊



チャハマキ 激発被害園



チャノカガビダニ寄生状況



チャノカガビダニ被害葉